

七、転進小戦

(1) 転進開始

(1) 四月十六日、八ヶ岳山麓に隠れ、転進準備、命令ナシ
戦闘情況ハ前日トモ変化ナシ、認メス

(2) 転進開始ハ機末、部隊ハ後方、新隊毎ニ定メテ

アリ、急グ傾向アリ、且道路ハ一本ニシテ敵ノ記

号ハアリ、進ムベキ機ニ本ノ谷ハ極ル、急峻、急ニシテ

且暗ク(月齢九日)人多ハ、六、七、越エ、利ハ、陸軍

部隊ノ一部ニ侵入ス、等ノ為、混雜、其機、割分ニ

轉進シ、係リ、混雜シ、行軍ハ、コバ、同夜ハ、急

ニ、半行進ニ、急セ、大部ハ、大ノ、急

聖書、向リ、急ニ、急ナリ

(3) 司令官ハ、長年、陸軍、歩兵、歩行ニ、急、且、急

(4) 四月十七日收容部隊より自ノ丸山北方渡田部隊及西方佐野隊迄反澤高南砲隊(一門)ハ母艦日鷲ニ戒ヲ敷ニシ銃砲聲ヲ發シニ完全ニ任智ヲ盡スル也

(懷日陸平服部之隊長今見一陸大令感謝之意)

<http://www.jacar.go.jp/>

解平山名滿朝鮮ニ至リテ前後ノ連絡ヲ失フニ至ル
 先任參謀板垣參謀ハ部隊ノ停止時向長キ為怪シキヲ
 先驗ニ出シテ始メテ之ヲ発見自路偵察中ニ施設スル
 隊ノ連絡斷絶ニ至レシテモ亦内ニシテモ連絡斷絶スル
 愚鈍ニテ歸路ヲ失合モ亦内ニシテモ連絡斷絶スル
 由司合部附其木兵書長甚此木一城ニ出路ヲ発見漸ク
 愁眉ヲ開キ兎ニ角トシテ河ヲ渡河スル名橋前ニ至
 テ開始セシ河行ニ先頭隊ニシタルトキ黎明トナリ敵觀測
 機飛來渡河ヲ斷合ノニナリ至リ。同日晝向テ南
 岸森林及河原ニ至ルニ至ルトナレリ
 因國國ニ至レテ戒メテ視シ候年候ヲ派遣シテ隈テ候
 密ニシタルニ北山附近ニ約一週間以前ヨリ敵戦車
 五台出沒シテアリトノ情報ニ接ス

續々ト来リ、今迄ハ海陸軍部隊又同様ノ情報ヲ得テ
 沙在部隊最先任者タル先任參謀志村大佐ニ指示ヲ仰
 ギテ来ル
 (東浦)
 海軍部隊ノ参入ニハ通信隊司令官部後六見張、航空隊
 一部等、約七百計、約千五百
 陸軍部隊ノ参入ニハ服部部隊、伊佐部隊等、約千五百
 四午後三時頃ハ信報送リ、河ノ北方約二百米ニ東浦
 通リ道路ニ戦車出沒、其南東北側ノ四圍ニ其陸軍
 部隊ノ小隊アリ、其東側ニ海軍司令官及テ行アリ
 司令官ノ信ニ依リ、如シ
 可先任參謀司令官ハ、海軍中將園長ト共ニ、午後
 九時迄通信參謀ヲ現地ニ留シ、連絡セシムル付、極力
 同時刻迄ニ止出セヨ

(3) 第三日

先任参謀少佐海軍部隊に指示して同日午後
後撤中隊毎に一隊は波河北上転進目的に至
るべく、白うら、大原隊を先頭とし通信隊
司令部は施設系外隊を率ひ、大原隊長尖兵先任
参謀前隊長の如くナリ警戒を厳し、敵我軍の
発散り圖キマセテ見エラントナクシテ午後十時
頃、岡ノ頂上ニ達シ通信隊司令部に合同ノ為
前進ヲ開始ス
同日九時少佐ノ率ゐる第一大隊ノ大部一リ同大
隊長、一中隊ヲシテ収束部隊ニ當ラシムヘリ指示ナリ
先任参謀ノ部隊は前進ヲ開始セルニ短移即電信隊一
八名ヲ以テ援セシメ十分毎ニ交代ヲ要スヲ有ル通信隊
ハ右行進ニ付トシテ進マズ司令部ト合同ハ爲ルコト

カニ聖要山頂後隊ト統制團難ニ施設ニ外隊ハ何ト
シテも面倒ヲ見サレ可ラズ

斯クハハ第ニ日ノ行軍軍ハ終リテ告ゲノ第四日ノ
盡内ヲ迎フルトナレリ 陸軍部隊約二百名統制

シアリ

第四日盡内山山上谷内トノ森林中ニ入リシタリ

敵視察隊ノ偵察ハ執拗ニ實施セシ我山上ニ手搦
ルヲ授ケルノアリシニ幸シト念見セシズ

南方ハ砲聲般々トシテ相方ノ戦闘ノ烈ヲ示シ
移動電燈ノ如キ重砲ノ運搬ハ難儀之ヲ新念ス
ル止リテ依テ

南後司金及ニ合同ヲ集ルニモ敵ハ既ニリロアン
ニ方面ニ進出シ當方合同ノ見込至ラズ且敵ハ進
尾急ニ為進路ヲ

平坦な海岸地区に水が干つて、米第ニ山嶺地帯に入ると、
 まきり行程速く、行程餘空ノ如ク進マズ

八月七日頃陸軍連行

海軍部隊

相ノキ地

山又山ニ分テ入リ道ナキ

道ナキ

道ナキ

道ナキ

道ナキ

八月五日頃宿営するに當り偶然柳原主計中佐ノ部ニ

補給隊ニ合スルニ

部隊者ニテ

道大トナリ

道大トナリ

道大トナリ

道大トナリ

道大トナリ

部ニ又合スルニ

部ニ又合スルニ

部ニ又合スルニ

部ニ又合スルニ

部ニ又合スルニ

部ニ又合スルニ

部ニ又合スルニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

月隊ハ決同陸軍少将ノ率ニ

部人部隊ニ

部人部隊ニ

部人部隊ニ

部人部隊ニ

部人部隊ニ

部人部隊ニ

部人部隊ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

又同日早キ大西部隊ノ約ニ

八月六日頃陸軍部隊ノ後任者部ニ合同ニ送リテ

連云

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

海軍部隊ハ約

163

時二月朔日東京
ハレタニ生年ニシテ
人事上より云
二階堂孝一

カチノ決平表「カルソ」西南方約四料ノ北西ニ達ス「カル
ソ」西方岩岡附近ハ「新」銃砲聲有盛ナリ
師團司令部より派遣セラル陸軍連隊將校ハ轉
上達ル、ソ理由トシテ強硬ニ該岩岡突破ヲ主張シ
同日晝前ハ同地ニ赴テ岩岡ヲ突破シ、第一
非正午頃道路作候タル田中村任務ヲ遂行中
狙撃セラル敵死セリヲ契機トシ前方警戒中ナリシ大
西部隊ノシテ分隊及大隊隊敵ノ攻撃ヲ受ケテ交戦敵ノ
銃砲聲盛ニシテ敵校ノ偵察頻頻綿密ナリ
漸クニシテ敵ヲ撃退シ大西部隊及大隊隊ノ死傷者
四五名ヲ出ス
依テ同夜ハ強行突破ヲ表シ、廿四日三十分行進ヲ遂行
夫より西方ノ山地ニ入り約一時間後北上ノ角後嶺タル
セリ此頃より急激行進ニシテ急激行進ニシテ急激行進

山を、板踏、最高峰、五〇米高地ヲ越、良、四月三十
五、午前三時頃、カト、西北約四料ノ地島ニ達ス

(第十二日目)

(地)

同地ニ彈痕多、數、其北方砲聲、盛、有、
同夜食糧微、乏、米、少、隆、軍、令、之、弟、白、二、師、(空)
司、人、部、ノ、任、置、其、他、一、般、情、況、ノ、概、略、ヲ、知、ル、

(8) 二十五日夕刻、林、多、集、ヲ、テ、師、團、司、令、部、ニ、連、絡、也
シ、テ、部、隊、ハ、之、同、地、ニ、止、ム、ト、セ、リ

(9) 二十七日、早、晨、林、多、集、帰、リ、有、在、記、要、旨、ヲ、後、令、
シ、既、ニ、カ、ル、ホ、シ、東、西、線、横、断、首、路、ハ、敵、戦、車、機、銃、
隊、シ、附近、一、帯、ニ、米、軍、車、比、軍、アリ、住、民、亦、之、通、
謀、突、破、機、構、ナリ、在、道、路、北、方、地、区、ハ、之、以、上

強、ト、ス、可、能、ナ、リ

部隊ノ収束國境上情況ニ鑑ミ現在該道路北方
 三三部隊ヲ第一師團長指揮下ニ南方ニ三三部隊ヲ第
 二師團長指揮下トスルニ協定セラルリ
 南方ニ在ル海軍部隊ハ志柳大佐之ヲ指揮シカ
 トモニ西南方地区ニ在リテ自派自戦スベシ
 原田司令官ハ北方地区ニ在リ横断道路突破主體
 一情況ニ鑑ミ司令官處ニハ必要ヲ待タズ夜一迎ノ時機ハ
 師團司令官部ヨリ通知スベシ

本司令部ニ基キ同夜出發指令地区「カトニ」西南方地区ニ
 白ヒ二十八日黎明前其北端ニ達ス
 同地区ニ甲標的隊長大尉角良光ノ率ルニテ水泳
 大西部隊某中隊ニ随行先着セリ取崩ハズ同地

第二復員省

ニ止マシテ情況ヲ証査ス

各隊ノ行動

（司合友ノ行動（附北方文隊））

四月十日（第三日）海軍部隊奉隊ハ施設三ヶ所ノ中間ヨリ切レ

連絡ヲ断テ志ヲ先任ヲ謀ルモ謀ハ司合友ト行動ノヲ

別ツル

司合友ト行動ノヲ先任ヲ謀ルモ謀ハ司合友ト行動ノヲ

海軍部隊奉隊ハ施設三ヶ所ノ中間ヨリ切レ

連絡ヲ断テ志ヲ先任ヲ謀ルモ謀ハ司合友ト行動ノヲ

別ツル

司合友ト行動ノヲ先任ヲ謀ルモ謀ハ司合友ト行動ノヲ

海軍部隊奉隊ハ施設三ヶ所ノ中間ヨリ切レ

連絡ヲ断テ志ヲ先任ヲ謀ルモ謀ハ司合友ト行動ノヲ

別ツル

無き所國司令部に在りて海軍に付し補給を被り感あり其の補給を先行
 十乃る未だ「ヤ」有 附 船 着 路「コ」コ「コ」河「コ」ボステラ
 「経」二十日未だ「ガ」ナオ「島」に到着セリ
 當時豫定計畫より海軍部隊事務に「ガ」ナオ「西方」約四料ノ
 山嶺地帯へ来んべし「コ」以テ此処に駐テ部隊ヲ掌握シ
 既命配備位置を赴テ急御ナリシ処（志那太他ノ寄
 隊ハ約「後」同他道）同「未」既司令部「ガ」ナオ「到
 着」王後敵ハ舟般被部「コ」以テ「ガ」ナオ「行」南「リ」
 上陸ヲ開始シタム「コ」以テ後続部隊ト完全ニ遮断
 セシタリ 備「コ」ガ「ナオ」ニ至リタル海軍補給隊
 （軍需部々隊）ヨリ派シタル兵士令「百」數十名ノ海
 軍部隊附近ニ在「コ」ト判断シタル「コ」以テ司令官ハ「是」處
 リ「コ」テ「當」手「施」スベシ出「張」セシ「コ」リ 當時同「コ」ヲ「行」シ「コ」部
 ハ「魚」雷般隊約「百」名ヲ「施」放「工」外「隊」及「彈」銃般隊約「百」名

中葉

第三大隊（艇空隊）約二百名ナリモ司令官に到着し、海ハ
 鮫ヶ大郎ハ出奔後ニシテ、魚雷艇隊日野中尉以下約
 三十名及弾銃隊約五十名々々
 翌日二十日早止結々後、艇隊來着セズ情及リ判斷
 スルニ敵艦ハ甘藷海岸ヨリ抵シテ、高松艇隊ハ山中
 ヲ北上シテ、急ク數ヶ所ヨリ至ルニ、急ニシトテ、
 國司司令官ト協議ノ上、津ノ北上シ、第一司令部（ソコト）
 ニ急行同地ニ於テ到着、新法ヲ得テ、橋ヲ修ムルニトシ
 ニ、タル新「ガナオ」系海岸ヨリ一急ニ北上シテ、未だ
 「カトモシ」ニ達セリ
 當時、印海司令官古瀬、東海軍武官、岡田、別府、佛經
 中尉（大尉派）日野中尉（魚雷艇隊）及下士約三十名、
 （ガナオ）司令官ハ、彈銃隊約五十名、早急ニ夜光ヲセシム

千石ノ割 カトモシ奈 金牛 カトモシ 北方ニ在リ 吉井
 部 部員及 松上大尉 (中森室) ノ部員ニ 約三百 鈴木政大
 尉 (松島 施漢ニ外 隊) ノ部員ニ 設置 隊員 約九十九 石原
 主大尉 (浦部 隊) ノ部員ニ 軍部 部員 先帝 隊員 ト 令之
 ヲ 指揮シ 同 隊員 ト 同 部員 司 令 員 及 隊員 我 隊
 (特 根 十 五 重 級 隊 員 約 千) ハ 同 地 ニ 後 部 隊員 ト 得
 浦 部 ノ 部員 ハ 次 先 帝 セ シ メ タリ
 當時 第一 師 團 (玉 島 國) ノ 部員 五 十 三 人 ト ル 部員 小
 浦 部 隊 (赤 島 部 員 四 十 九 縣 隊) ノ 部員 十 三 人 ト 列 隊
 ハ 千 石 部 員 先 帝 之 ヲ 花 ノ 部員 先 帝 之 ヲ 花 ノ 部員 先 帝 之
 是 ヲ カイニ 部員 十 人 陸 軍 病 院 隊 員 令 部 隊員 (精
 至 第一 師 隊) ト 令シ 玉 島 國 司 令 部 ハ 部員 二 五 〇 名
 地 部 方 (サ カイ) ヲ 部員 十 六 科 (二 五 〇 ト 部員 十 六 科)

別府より海軍部隊砲術地ノ指導ヲ受ケル
 司令官ハ連王國司令官ト会シ談話ノ指導ヲ受ケ
 部隊ヲ掌握スルヲ決心シテ定メ教員又シテ「ルゴ」
 南方ハ後続部隊ト連絡用トシテトエヨク知シテ
 別府ニ至リ南方ヲ至リテ五ノ米如クサカイノ
 因彼王國領山矢ヲ謀来訪
 海軍部隊ノ来賓ハ彼王國ヲ連絡ナク宛然ナク配属
 ヲ決定シテ「ルゴ」ヲ援テメ内示セラル「ギントリ」
 「ルゴ」ニ西五地帯ハ遊蕩ナク食糧モ十分ナク大部隊
 ノ自治ニ不備ナリ取敢ヘズ「ボルボン」「ゾゴット」「サカイ」
 通ル三角地帯内ニ居ルニ度、司令官新ハ連絡ナレ
 バ一應該地ニ至リテ後司令官を連絡ニ行カレ
 後尚
 ① 既に到着スル部隊ハ司令官ト打合

上ノ建ナカリシ高麗佛及道路破壊ニ使用中ニシテ近ク復
 歸セシムベシト
 依テニナラハ未明司人及ニ組ニ我隊ヲ率テ「ボルボン」道
 南方ニ移ルト共ニ佛殿中村（豫備）ヲシテ「ボルボン」ガ
 イ「ソゴト」ニ前地帯（帯ノ偵察ヲ行ハシナリ
 千八百佛殿中村ヲ「ルゴ」ニ移来テ報ジ玉皇國
 コリハ部隊ト共ニ吾國司人部ニ移来後乃建館
 アリ 月夜奈 夜半ニ五〇方地西移ニ至リ司令
 官ハ玉皇國長ト合シ
 敵ハ「ソゴト」ヲベラシメ兩地ニ上陸シ其一部「ルゴ」ニ
 進出南方トノ交通ヲ完全ニ遮断セルヲ以テ其後續
 部隊ヲ来着ノ途ナシ 依テ海軍部隊ハ其國境ニ傳
 区域ノ北約三分一ヲ受持シ後該地域ニ在リテ陸軍

兵力要點八。

司各脱北方

第二復員省

0614
173
169

0748

(2) 吉村部隊の行動

吉村大佐の手兵約三十名ヲ率ヒ松道南端に陣取リ
吉村大佐は先ヅ出陣部隊ハ第一大隊長九ノケケ佐リ
ニ要ス

先ヅ陣地後方ノ岩ヲ經テ金子隊陣地ヲ通リリロ
アジニ出ヅ海岸道ヲ北進 概ハ海岸道ヲ經テ部隊トシ
テ第一角ノ岩ニ至リ北端ニ至リテ第一師團長ノ指
揮トナル

斯ケテ部隊長自別ハ今ノ本末ノ係ヲ明シ後續
ノ係ヲ盡サズ

九ノケケ佐ノ手兵約三十名ヲ率ヒ松道南端に陣取リ
河北方ニ於テ休整中 先ヅ多ク謀ノ指示ヲ受
ケ第一中隊(長松下将大尉)ヲ率テ後進者及後續

隊ノ收容ニ當リシメ自ラハ部隊ヲ率ヒ北進ヲ續ケ
 末五百米留地西方市街沿道省同地ガ食糧甚多ナルヲ
 其ノ蒐集ヲ兼テ休養ヲテシマリ
 其ノ先任多シヨリ連絡無キヨリ公同ニテ命ヲ接シ
 約一月間ノ協同ヲシテ許可セラルルニ向テ土民ノ被
 害ヲ受ケルニ至リ 因ニ放去スルヲ海軍南方支隊ニ
 令同タリ
 松下中隊長ハ輕進第4日目命ヲ受テ後續隊收容ノ為
 残存兵士中ニ連日ノ戦ヲ受ケテ同ノ被傷ヲ受ケル者
 船山方面ヨリ西進中ノ敵トシテ數回ヲ認めタリ
 休ヲ圖ノ北側ニ至リテ休整中ノ陸軍大田部隊其地ニ至
 報戰鬪態勢ヲ知ヘタル折ニ敵戰車砲ヲ以テ砲
 撃ヲ加ヘテ北角ヲ佔ヒテ歩兵ヲ進メ約三百米近

769

山後戰闘ハ時相重天仁シ海軍ニ任テ之ヲ無武裝ノ流
任者ハ或ハ新物ヲ棄テ或ハ其衣ヲ放棄シテ人命カラウ
北方ニ走ル者モ出ザルニ至リ

松下隊ハ小銃僅々三十挺ヲ有スルニ過ぎザリシニ勇猛ナル隊
 長ノ元ニ弱軍ナリ能ク取調而モ大西部隊トノ協同極メテ
 良好ニ向隅ヲ仰ヒ得ニ海軍ノ十三耗核銃艦威ヲ振ニ
 敵ノ軍團ハ終ニ退ニテ敵ノ軍團ヲ收ムルヲ得タリ
 同日夕刻敵ハトラスノ數輛ト分乘松下隊ノ東南方約
 千米ニたラトラスノ數輛ニ分乘東方リロアニ方面ニ移
 退ニテ敵ハヒントスルヲ発見セリ 直ニ十三耗核銃ヲ以テ之
 ヲ後射セルヲ以テ敵ハ數十名ノ死傷有リ生ニ混亂甚極
 ニ達シ敵ヲ追ヒテ追走セリ

松下涿石園図録ヲ訂補シ北進五月上旬大塚茂三令

176 0751 1920

(12) 〇

(3) 根来部隊の行動

根来部隊は前哨ヲ命ぜりしタルヲ以テ概ね日没迄トモゾ陣地ヲ
引揚ゲ陣地長は奥ノ方ヨリ転進シテ開始ヲ行ハシ根来部隊
はハ弟ニ大隊長原口ヲ使ヒタルヲ以テ中隊ヲ直撃シ後ハ
概ね各中隊毎ニ転進ノ結果トナリタルハ當時ノ状況ヨリ
シテヒナリ得ザルナリ 各中隊亦能ク團結シテ半數ハ
陣上期日迄ニ北端地迄ニ達シ第一師團長ノ指揮下
ニ入ル

部隊長直撃ノ部隊ハ途中山深ク入りテ道ヲ迷
ヒ或ハ運賊ト普ク思ハスルモノ多ク著しく日暮ヲ要シテ
転進開始後約七日頃敵兵ハ其代表ヲ名取來訪セ
令リ来リ安部ヲ申上ルニ部隊長ハ情況怪シト見テ

第二復員省

(4) 補給隊(軍需部)

一、名ラシテ島民ノ元ニ帰り武蔵ヲ引渡スル様交渉セリ
 他ノナニヤ人質トシテ拘置セシモ未ノ定傳行爲
 ナリシ爲メテ烈分シタル事アリ
 四月末五百米高地南西方地ニ達シ合兵強要ナル所
 之ヲ蒐集シ行ヒツアリシ也先任者深ヨリ連絡セリ
 合同ノ命セシ約一週向、補給隊ヲヒツルニ向セテハ
 賊ノ襲撃ヲ受ケ五月三日頃合同セリ

隊長榊原王計中佐ノ率エル補給隊ハ海軍ノ担当スル在留邦
 人部隊ヲ同行前記ノ如ク先任者深ノ部隊ト途中出会セル
 毛母ヒ合離行都ノ補給敵ニ遭遇スルモテテ無事五月
 初頭海軍南方支隊ニ合同セリ

同同友師ノ率エル婦人部隊ハ遂ニ合離リ部中先任

多謀ニ同行ヲ命ぜられ南後同リナリ

(5) 佐野隊ノ行部

且下陣地ニ於テ収容部隊トナレ佐野隊ハ無事佐野
ヲ脱了北進中次第ニ西海岸進軍ニ接近シ概ネ
アトトリアスニ東方附近ニ於テ匪賊ノ女協同込ヲ受ケ
タリ隊員ハ之ヲ好策ト見破リシニ食糧ニ甚シク乏
リ新極同行中ノ第ニ丁六等備隊主計長伊東(平)
主計大(國)「タロロハ」ヨリ脱出帰投ハ兵一カト共ニ匪
賊ノ中込リ見込ケン初出飛込ニ捕虜トナル
佐野隊長ハ伊東主計大尉帰投セザルヲ以テ直下
匪賊ヲ攻撃シ之ヲ殺戮將同ノ及ビ隊長左胸ニ貫
通銃創ヲ負ヒテ死スルニ至リ北ノ方ニ強進
ヲ続行ナリ 五石米富地西北方地区ニ至ルニ迄ニ味

方部隊ヲ搜索シ得ズ其内「エナリ」ト患病者ノ続出ス
 ルコトアリ其儘同地ニ留リ駐留部隊長病死先任右隊
 長ノ職務ヲ代行セリ

(6) 其他

(A) 輸送船二日後統制部隊整理ノ為更ニ遣セシ柳原中尉
 ハツモ「陣地裏」ノ為引退シテ遂ニ海軍部隊ヲ帶過ス
 ルヲ得ズシテ同司令部ノ後ヲ追ヒ五月月上旬司令部
 (B) 陸軍ノ防衛ニ協力セシ先澤隊(柳原隊ヨリ更ニ遣)ハ陸
 軍伊佐井隊ニ属シコウユウ「河南」岸ニ於テ四月十
 先任者ヲ謀ニ令シタルモ伊佐井隊長ノ懇望ヨリ
 同隊ニ同行ヲ許シ其後四月末目的地ニ達シ
 以後五月月上旬海軍南方支隊ニ接合同復歸セリ
 (C) 迫在隊ハ半数即右隊司令部ノ移轉行ヲ命ぜラレ

團難行軍ヲ行ヒ

タルモ、松江開始日早クモ谷ニ降りル際峻嶒ナリシヲ
米底ニ転落スル者アリ、其處ヲ忘失スル者アリ行軍ニ
妨テテ困難甚シキ事遂ニ追尾レ得ズ

四月三十日未明漸クニテヒトニ着、同地ノ國ノ北側ニ休
總書同リ過スル敵ノ熾烈ニ攻撃ヲ受ケ、幸ニ同地
ヲ守備シテリ、松下隊及陸軍大西部隊ニヨリ敵ヲ支ヘ
ヒ、追討隊ハ逃スル無武裝ノ徒兵者多ク數リ混亂其
極ニ達シ遂ニ一部ハ潰亂シ、隊統トシテ儘松江ニ退行ノ止リ
ナキニ至ラタリ

其後人員減少シ一部ニ留リ、松江ニ移リ、松江分シタルモ
モアリ五月上旬海軍南方支隊ニ合同シテ松江ハ砲僅
カニ門ニ減少ナリ

0622
181

0756

先任参謀之砲及輕機銃測要具ノ搜索回収ヲ敵
命ヲ所同間ニ直リ「ガバオ」西方地区迄搜索シタル敵ニ
遭遇數回包圍攻撃セシメ遂ニ目的ヲ達セズ漸ク砲
門ノミヲ回収スルヲ待由之ヲ修理スル
砲彈ハ施設工外隊約八十名携行シ命ゼシタルニ翌至
島下ニシテ全部ノ携行至難ノ爲半数ヲ途中ニ棄分
シ四十名ヲ輕進地区迄携行セリ
（四）敵輕隊ハ「セ」降地出立時既ニ連ニ島大尉ト行
動ヲ共ニセリ
島大尉ハ大西部隊第二中隊ト外行動ヲ共ニセシ
ヲ以テ行軍途渡橋ノ「ア」早ク四月下旬海軍南方
支隊指定地区ニ進シタルニ一即該位置ヲ出スニ至リ
砲度橋ノ「ア」低下スルニ瀕シ爾ニ敵ヲ該位置ノ内

海

第二復員省

（右）オシロカニナリ

ニ一都一縣進ヲ新会同ビツセシ陣地ニ引込スト言ヒ
居リシ者アリント謂フ

(E) 甲標的隊長島良光大尉ハ陸奥隊ヲ都付トシテ都付
ヲ取纏メ特進途中出表ニ進シテ都付ヲ収容シテ
十八日「コソウ」河ヲ南岸ヨリ有テタル「ビト」岡ニ於テ敵
ノ襲撃ヲ受ケ南後陸奥大石都隊弟ニ中隊ノ後
尾ニ結ビ行ケル 四月下旬「コソウ」河ニ西南都ノ河ノ
合流点ヨリ要害堅固ナル岡地ニ大石都隊ノ係後
ノ下ニ食糧蒐集等ノ傷大ニ云々ノ恢復ヲシテ
リシ処敵軍ノ侵襲ニ付トナリ島隊ハ大石都隊ト
協議ノ上約五石米上流ニ一時退避セリ
然レモ同夜大石都隊ヲ要ニ約千米上流ニ退避セ

ニ為無武装ノ島隊ハ全クノ保トナリ大西部隊中隊長
ト著陸米ニテ交渉中ナリ

(F) 水陸軍機隊ハ部ト約ニテ数名ノ中ニ轉送中

陸軍一隊部ハ隊ト行部ヲ共ニ五月廿五百米ノ地ニ

達シ當ニ東海岸ノカルメンヨリ西海岸ノアストリ

ア方面ニ移動中ニ物糧移動中ノ土民數百名

ニ遭遇セリ土民ニ武装せんノ預備アリ

此等突如小我闘志起セリ

同隊ハ腹部ニ隊ノ後方ヨリ銃中ナリシニ解リ

之ニ反シ腹部ニ隊ハ隊内紛糾シテ木銃擲弾筒

ヲ有せん彈藥ト分散シ前者ハ山上ニアルニ後者ハ

山下ニ在リ此等ノ内ニ合ハズ此等ノたゞ同隊

(7) 食糧事情

ノ戦後ト擲彈筒ハ係其ノ戦力ヲ示シ敵ノ
戦力ヲ制シテ之ヲ撃テノ遺棄銃銃食糧ヲ押収
食糧不足ニ悩ミソノ戦力大ノ貢獻ヲナセリ
翌々日同地登五百米高地北東ニ在リ海軍南方ニ隊
ニ在リ
脂部ニ隊ハ海軍地区内ニ在リ三日滯在休養後北進セリ
我軍ニ在リハ乃チノ食糧事情行々命ニシタルニ至ル迄大ニ之ヲ擲行
困難ナリ 敵軍區ニ在リ食糧ヲ失フ者ニナリ古日同地ニ在リ食糧不足
シ甚クニ至ル 同行ノ陸軍ニ見習ヒテ微希リ斃スルニ至ル 司令官ハ
兵力少ク甚多ナリ行軍中ハ柳子実一個ニ名介ノ一分トスル情状ナリ

此島嶼我軍ノ島隊ハ今津トナリ大西部ノ海中隊長
トモ海軍第一ノマシマシナリ

八 第 一 次 自 治 自 戦

(1) 自治自治隊ノ本隊連隊員ノ線

(2) 五月一日志村部隊指定地区着先ヅ中央移線ノ西側

ニ施設エテ隊ヲ入レ具他ノ島隊ト合同 翌日我隊ハ大東

隊ヲ下流ニ三角山附近ニ配シ翌日ソコト方向ノ敵軍

ヲ撃シ我マシム

(3) 同日志村部隊大西部隊中隊長ヲ約シ情報ノ交換ヲナス

(4) 五月三日大西部隊ハ部隊長ニ合同ノ為出張 海軍本部

ヲ同部隊中隊長ヲ移ス

(4) 先有よりし部隊

島隊(約○○)第一大隊松平隊第二大隊某中隊

(5) 五月上旬第一大隊ノ大部 母根末部隊ノ半数 追記隊

原隊(約○○)第一大隊松平隊第二大隊某中隊

紅雲兵居柳ノ下カク追記三門(一門は使用困難)松鏡中

隊一校小銃十五名ニ校ニ属スル

(6) 海軍ニ小銃多クカク且施設ニ外隊律銃隊島中ノ中

中ニハ台湾朝鮮工員アリ 日米自義ニ在ルモ柳ノ下

困難

(7) 五月上旬頃陸軍偵察隊長青木大尉来訪シ此

物廠自即中隊 在留印人陸軍病院等約七百

名等古ニ師団司令部アリ 海軍地区ノ中兵ニハ領

志柳大佐ノ区長アリ等々ニ林命セリ一ハ台省ノ旨

海軍司令官の指示
 陸軍中隊の統制
 海軍司令部
 海軍司令部

8290
 187
 2920

- (12) 五月 陸軍連隊長末訪陸軍中隊部隊
- (10) 南方ハ根米部隊及九島大島部隊ヲ受テ合向
 艦ヲ梅融ミハ船ノ表部隊中ニ沈没シタ
- (9) 北方ソゴット方面ハ當部大西部隊及島部隊が敵
 艦ヲ梅融ミハ船ノ表部隊中ニ沈没シタ
- 海軍部隊ノ指揮ト入リシムルカセシ度方南三河
 四要所ルニモ何等処置ヲナサズ
- 依テ仲間多ク謀反シ其旨通報退去セシムルカ成
 海軍部隊ノ指揮ト入リシムルカセシ度方南三河
 四要所ルニモ何等処置ヲナサズ
- 部隊ノ下我艦ヲ撃ツルカセシ度方南三河
 四要所ルニモ何等処置ヲナサズ
- 進軍中トシニモ係ルカ方ヨリ情報ヲ提供シ至急
 隊ニ合同ニ指示スルカ方ヨリ左ニシテ部隊ハ海軍
 部隊ノ下我艦ヲ撃ツルカセシ度方南三河
 四要所ルニモ何等処置ヲナサズ
- 在外陸軍部隊ハ海軍基地ノ重要地域ヲ占據シ輻
 射途中心トシニモ係ルカ方ヨリ情報ヲ提供シ至急
 隊ニ合同ニ指示スルカ方ヨリ左ニシテ部隊ハ海軍
 部隊ノ下我艦ヲ撃ツルカセシ度方南三河
 四要所ルニモ何等処置ヲナサズ
- 報告スル依テ其意或隊ヲ以テ自衛ヲナシムル根拠モ
 在外陸軍部隊ハ海軍基地ノ重要地域ヲ占據シ輻
 射途中心トシニモ係ルカ方ヨリ情報ヲ提供シ至急
 隊ニ合同ニ指示スルカ方ヨリ左ニシテ部隊ハ海軍
 部隊ノ下我艦ヲ撃ツルカセシ度方南三河
 四要所ルニモ何等処置ヲナサズ

第三復員省

海軍地区北端附近河岸に到着。海軍部隊の動向
 を知ると度旨申入ル。
 文書より状況を知り、幕僚本部に故降ありと
 連絡し行方を探る。
 約日、後第一大隊長九岩少佐より、小浦部隊の食
 糧確保に休養し、為當分他に移動する旨伝言ありとリト
 一報告アリ。
 海軍司令部より小浦部隊が行動し
 何故に来りしと其理由を解せず。後、早川海軍に
 同海軍部隊を交付其意を述べしとナリト
 (16) 敵の動向を注視し、我々の連日敵の攻撃を受け
 陸軍部隊の戦闘意欲が衰へ、ミナ洞窟内
 へ退入し、戦士が行く。有る望み敵線に近づき生じ
 後、敵の侵入を拒み、海軍部隊と共に一途に山

0630 0764 189

ル

(系一ノ中)

市川隊と溝橋と柳原隊間ニテ陸軍部隊ノ如キ
 毎日ノ如ク敵ノ襲撃ヲ受ケテ無差シ道棄シテ自
 走。隊長ハ洞ノ奥ニ置ケリユサシテ敵ノ包圍ニ陥リ
 救援ヲ市川隊柳原隊ニ托スル。市川隊長ハ先頭
 ニ進ミテ部下約十名ニ隔テサルヲ率ヒテ敵ヲ群衆ニシ
 ヲアリ(柳原隊ニ數回)

(14) 五月下旬初第百二野團司令部(大田部隊直率)ハ方
 ニ進發シ(ソゴツト北面)ヲ撤シ五百米高地西方自注自注
 地ニ至ル途中一海岸地ニ西側ヲ通過ノ際海軍ヨリ警
 報先セレ敵ニ遭遇。遂ニ突破シ持ダレテ後退其後消
 息(今)不明ナリ

第二復員省

海 陸 田 中 尉

陸軍連統將校ハ連統ノ指揮團司令部ニ至リテ同日
司令部ヲ移動シ陸行部ヲ共ニ海軍地ニ西側ニ移テ
分龍海軍司令部ニ降投自任自義自外我ハ命
令ヲ伝ヘナリ

(15) 海軍部隊四團ノ情況次ノ如シ

A. 西方ノ敵ハ指揮團司令部ト遭遇後更ニ整列ニ攻撃
シテモモ退ニ致シ阻止セシ。且數回我軍砲火ヲ受ケ
タルヲ以テ後退セシメノ如ク南進沈没スルガ
甚北方砲火ハ米兵約十乃至十五名ノ一ノ數ヲ出沒シ
後方ニシテ其後援息ヲ斷リ
B. 北方三角山方面ノ敵ハ我第一大隊松下隊ノ砲火
ニ阻止セシト一時後退セシモ遂ニ次東方ニ進リテ

附送

第二大隊ト間隙ニ出現 高東方第二大隊ニ我師
中ニ在リ陸軍部隊方面ト呼ビ心シテ連日猛攻ヲ加
フ 陸軍部隊ニ奮戦シ奮戦シテ遂ニ洞窟内ニ迫
入シテ戦斗セリ奮戦シテ遂ニ敵ノ侵入ニ付トナリ
我師我師ニ在リ奮戦シテ遂ニ敵ノ侵入ニ付トナリ
ナキニ至リ

C. 南方ノ敵ハ五石末高地東北カノ三角山ニ出陣上ニ
天幕ヲ張テ陣日攻撃シ来リ 陸軍部隊ニ
戦斗ニ奮戦ナキト 固ノ如ク従テ敵ハ固シク
攻撃ス 其處都及市川河柳部隊ニ奮戦
ニ付テ退シタリアリシニ 某夜市川河柳ハ部下
一ヶ山隊ヲ率ヒ西方ヨリ夜襲ヲ決行セリ

1928890 2920

不幸、突入、寸前、花、敵、発見、機銃、射、射、射、
 我、機銃、射、射、射、我、機銃、射、射、射、
 敵、其、機、銃、射、河、界、呼、喚、明、瞭、聞、カ、レ、タ、リ
 我、共、在、敵、ハ、敵、ハ、失、敗、シ、悔、夜、中、翌、朝、ハ、更
 三、倍、強、セ、シ、メ、ノ、如、シ

(16) 敵、包、圍、攻、撃、ハ、益、烈、シ、タ、五、月、中、旬、和、談、ヲ、復、シ、
 情、國、ヲ、介、介、情、況、ヲ、報、告、セ、ル、一、度、ト、シ、テ、河、界、
 処、置、ア、リ、タ、シ、ト、ナ、レ

井、上、重、忠、大、將、機、銃、隊、長、ト、シ、テ

又、南、方、ノ、敵、ノ、襲、撃、ハ、主、リ、ロ、ア、ン、部、隊、船、中、ノ、名、(船、船、
 船、等、逐、ハ、十、六、日、以、降、我、方、海、軍、部、隊、是、を、撃、ツ、
 已、ニ、傷、ム、何、等、死、者、ヲ、ナ、カ、ク、(死、者、ハ、主、ニ、機、銃、隊、中、ニ、モ、
 二、十、五、日、以、降、海、軍、部、隊、我、方、船、中、ノ、名、以、降、陸、軍、

部隊ヲシテ三日ヨリ師團司令部ヲ至任定メタル
 進行速ニ終リナシメタルモ師團司令部ノ見
 二至るハ(同陸軍部隊ハ師團司令部直屬トナシテ)

(1) 情況大ニ如ク海軍部隊ハ敵ノ重砲ヲシテ海
 陸軍部隊トシテ數ヲ抱エ甚クモ至リ

此ハ今迄至リタルニシテ師團司令部ハ陸軍部隊ハ
 異口同音ニ此ニ至るヲ部隊ニ合同ノ為ヲ進メ
 主張シテ居ル

若シ此際陸軍部隊ハ師團司令部ハ海軍
 部隊ハ甚クモ至リタルニシテ全滅ノ外ナシ

依テ志士大佐ハ海陸軍非敵トシテ師團司令部ハ招致
 シ情況ハ此ヲ得ザルヲ脱出點ハ南方ヨリ外ナシ

ヲ以テ二十九日(?)夜脱出シテ執行前降陸軍一隊我
 軍ハリロアン部隊ト協議 海軍氷我斗負印隊ハ七百
 米高地(五百米高地東方)附近ニ在リテ命ズ。而シ
 テ海軍南方支隊ハ氷我斗負リ急車一脱出スルハ有
 三十九(?)迄ハ萬難ヲ排シテ脱出スルヲ決意シ
 着シ敵ヲ追ハシテ氷我斗負リ急車一脱出スルヲ決意セリ
 海陸軍氷我斗負印隊ハ日中至日三十九日迄
 ント共ニ南方ニ脱出シ快行シ 海軍一側ハ無事ナ
 リニ陸軍側ハ行軍一途ニ途ニ敵隊下ニ於テ終
 ヲ迎ヘ 而シテ不甲急車一脱出スルヲ決意シ
 見エリ。三十九日晝間ニ四二五リ 敵隊双洞ノロ
 六枚ノ急車セリ 四散セリト云フ

北方及東方

(20) 三十日午後三時、陸軍小浦部隊在射撃場ノ下士
ト共ニ軍旗ヲ奉リテ来ル。情状ヲ聞ク。小浦部
隊ハ食糧糗糧ト休息ノ為ニ北西方ニ移動シ、先ヅ
細山ヲ登ル。主計大尉情状調査ニ出テ、偵察員ヲ
断テ、翌日ヨリ數日、小浦部隊ハ敵ノ包圍ニ
テ攻撃ヲ受ケ、傷、死、病者初メ幹部ノ系統シテ
リシ山ノ中ニ迫リ、彈藥炸裂ニ全員戰死。部隊
多數傷亡。傷亡者ニ三十名トナリ、海軍部隊中
ニ入リト。

海軍部隊ハ小浦部隊不利ナリ、今更ニ前進、名傷ヘテ、司令
部ニ報告シ、二連リセシムルトナリ。

南陸軍病院ニ傷物殿トノ間ニ若干ノ感情同然
厭義多ク、ニ屬ス。アリテ、為ニ十九日、陸軍ノ設置

ありて念ひされ海軍司令部に送付する事。一、角後ノ
 閣僚より地ノ陸軍部隊ト行部ヲ告ぐるに根拠ナク
 悉ク断るにレリ以テ海軍部隊内ニ在リテ統行せし
 るトトマリ

(参考)(人秘)

二十九日午後(一)軍需部支那長柳原主計中代来
 リ流し(一)ニヨレバ

陸軍ハ在る和人に對シテ止成以下ノ子供ヲ支給スヘ
 キ旨要求シタル由ナリ。陸軍係後中ノ在る和人来
 リ。到底自分ノ子供ヲ支給スルニ忍び難ク付海軍
 部隊ニテ係後セウシテト急來シ来リ。依テ
 陸軍ニテ係後スルキ者ヲ海軍ニテト言フコトナレ
 バ、両軍間ノ感情問題ニ影響即ち之ニ害ナク故

ハナレテ海軍ノ後尾ニワキナリトセバ海軍ニシテハ快シ
 ケ不人情ナ事ハセズト云ヒキキヨリ。セゾリ出ニ時
 モセ大以ト(?)ハ志氣分ヤシナリト聞キアリシガ夫
 様ノ事ニ云ナリシカニト
 轉ッヨリ出ゲテ北方船中ニ海軍ノ関係車ヲ和
 人中之ハ赤坊ヲ抱キ幼児ヲ着目シ、片手ニ五六
 オノ子供ノ子ヲ引キ止メ者ヲ見受ケナリ。互ニ相助
 ケ子供モ亦聲一ツ立テ之ニ入リ行軍ニシテ
 リ。
 陸軍ノ関係ノ和人中ニモ、五オオノ子供ガ母親ニ
 手ヲ引カレ抱ケテ之ニ入リ行軍ニシテ、和軍
 モナラサナリ。疎忽レアリ。茲ニ其様ノ言ヲ聞キ
 テ、陸軍ノ関係内ニ幼児ハ見受ケナリ

0540
0724
199

(四) 食糧事情

- (イ) 玉黍蜀ハ土民家ニ山積シテアリ。土民家ニ金ハ概テ谷ニ一戸アリ。新田ハ概テ玉黍蜀ヲ糲トシテ主食ス。高玉黍蜀ヲ煎リテ庶民種食トシテ自ニ日分糲行セシム。
- (ロ) カモチン(蘭印ニヒタシタピオカ)モアヒモ多ク産スルノ之ヲ糲ニパンヲ作ル。
- (ハ) 里芋ヲ糲ニ見受クルモ大ニモハ毒氣入強シ。
- (ニ) 椰子ノ新芽ヲ野菜ノ代用トスルモナシ。
- (ホ) 内類ハ水牛。豚ヲ糲ニテ飼育セリ。
- (ヘ) 輕便ニ當リテ食糧蒐集区域ヲ定ムルモ、紐南千石ニテ安全ニシヨリキチヲウケテ以テ中央ニ位置スル司

第二復員省

食部ハ數日ニシテ食糧ニ困窮ス

已ヤリ、曹、駐者等ヲ集ナリ、司令部外、常派ヲ編制シ、食糧蒐集、米、麦、豆、シ、ハ、運搬ノ困難ト、各派ト、摩、極ト、物、兩、果、糖、ハ、年、一、年、中、國、難、狀、態、ヲ、示、ス

(1) 警、戒、線、ニ、至、ル、右、派、ハ、先、ヅ、警、戒、線、内、ノ、食、糧、ヲ、蒐、集、シ、他、派、ノ、区、域、ヲ、荒、ス、ト、シ、テ、シ、ル

警、戒、線、外、ノ、ミ、ハ、警、戒、ヲ、ミ、タ、シ、テ、他、派、ヲ、シ、テ、絶、對、ニ、取、リ、シ、メ、ズ、後、ヲ、警、戒、線、内、ノ、和、派、ハ、物、ヲ、不、利、不、自、由、ナ、リ、牛、豚、ノ、如、キ、ハ、殊、ニ、多、シ

(4) 敵、ノ、攻、撃、ヲ、受、ク、ミ、タ、シ、バ、警、戒、線、外、ニ、キ、リ、付、ク、ル、ヲ、待、ズ、線、内、ハ、最、初、ニ、キ、リ、付、ク、ル、ヲ、以、テ、直、ニ、食、糧、ニ、困、窮、ス、五、月、ニ、テ、カ、ハ、ミ、タ、シ、バ、既、ニ、食、糧、ノ、已、ヤ、リ、ニ、至、リ、而、シ、テ、二、百、人、リ、保、有、セ、シ、ミ、タ、シ、バ、食、糧、ヲ、リ、シ

2790

0776

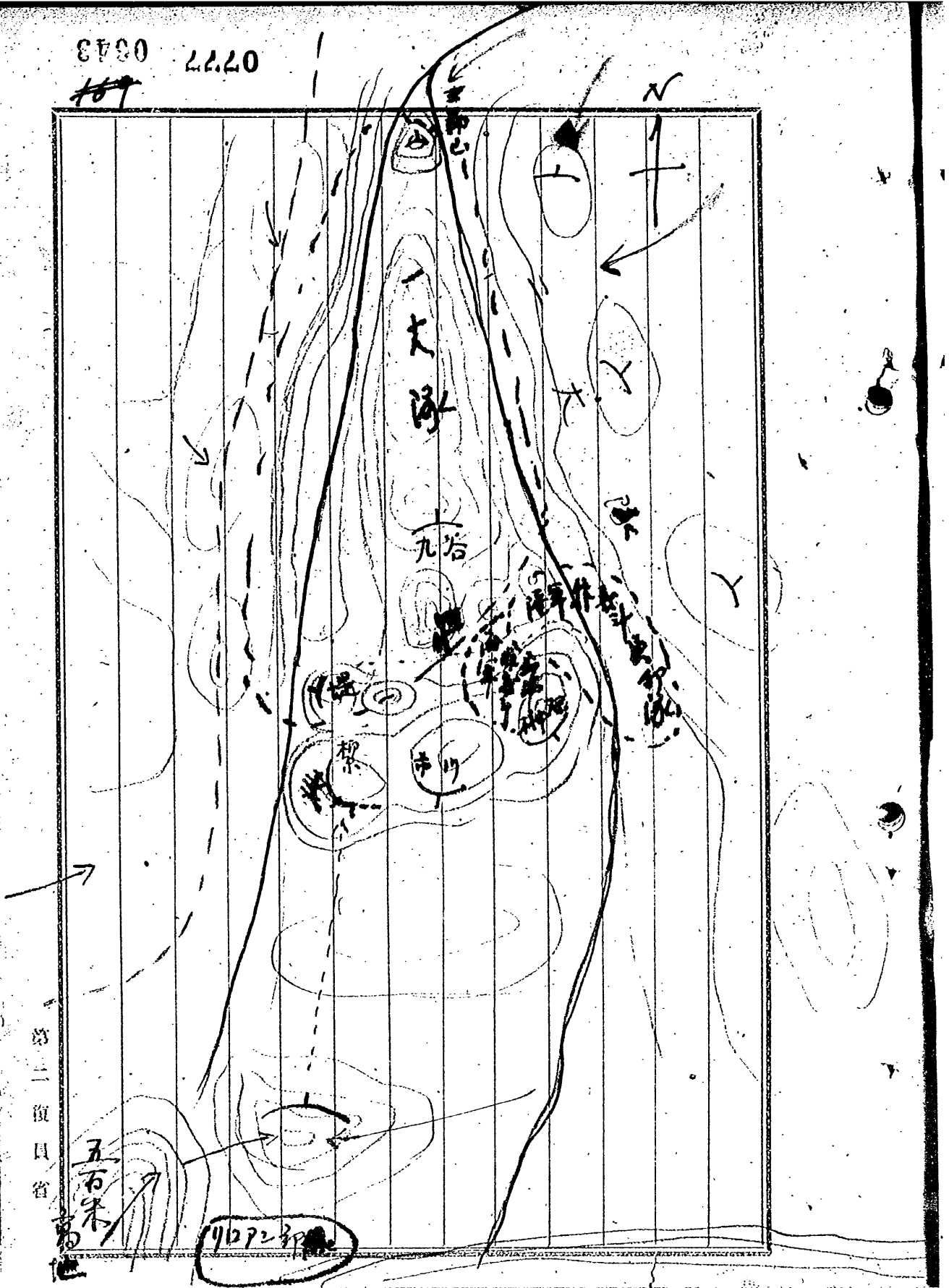
201

ヲモ殿
松述ノ
ニナナ
ナカリ
シナリ

第二復員省

0727 2120

0343



8240
202

九、第二次松進

(1) 第一期松進

(1) 五月三十日夜ノ松進ハ河ヲ溯江シ縣南方三角山敵陣地

トヲ無事通過五百米高地東カノ尾根ヲ登リ岡地

ニ於テ六月一日ノ晝間ヲ通過ス 同日リロアニ新隊

及補給隊長柳原主中佐未訪ナリ

當隊ハ五百米高地南方馬蹄形高地ヲ目標トシ松

進ヲ開始セシメ既而道路復舊後三日出現情況

ヲ見テ數日後補給隊及施設工隊ヲ迎フベキ事ヲ

説明セリ

(2) 豫定ノ通り三日夜出全カレシ西方ノ山ヲ迂回シテ

五百米高地及馬蹄形高地間ニ露出スルナリ

四月四日午後師團司令部ヨリ連絡將校未ル

第二復員省

師團其ノ傷ヲ被ケハリロシテ部隊ノ通報ニヨリ當隊ノ状況
 ヲ承知シ今更ノ如ク急務ナリ。直ニ原指定地ニ引込ス
 シト主ヒアリトノ事ナリ。然レ其ノ手配ヲ命ニ志拂大體
 ハ同夜連続將校ト共ニ師團ヲ引込シテ訪レタリ
 (3) 師團其ノ傷ヲ被ケハリロシテ部隊ノ通報ニヨリ當隊ノ状況
 形勢地東側高地ヲ指定地ニ引込ス件ヲ撤回シ馬蹄
 後松進ニ關シ議席セシメ統帥陸軍側ニ「リロシ」部隊及
 海軍決起ニ至リ部隊ノ戦斗意欲減除●不能力等不部
 合ノ点アリシト●海軍ニ其意告出シナリニ等其地師
 團命令全ク不備ノ点アリシトシテ決メ誤解ヲ一掃セリ
 師團長ハ當時相當昂高状態ニアリトノ事ナリ
 シモ海軍部隊ノ兵器ノ過小冰戦斗穴ノ大差●覺
 得●師團參謀長ヘノ請●通報ニ付スル処置ノナリ

206

シト等ニ驚カレ、小埔部隊ノ不始末ヲ記ビテシヨリ、決
新駐留地ニ對スル注意等ヲ與ヘシ更ニ、國際情勢力ヨ
リ見テ九月ニ至ラバ勝敗ノ帰趨モ見當ツクベシ、其
陸ハ「セ」ヲ得ビナキニハ、遂次南下ツセ、上表
山ニ至ル心算ナリトノ事ナリ

(3) 四日付暮時部隊ニ帰投スルニ、東方後線ニ土
民群數千ヲ逢見シ我部隊ニ對シ砲撃盛ナリ
情況ヲツクム、晝頃東海沿岸ヨリ西海岸ニ横斷
スル民群ヲ發見ス敵軍ノ跡ニ我網ト我銃ニ
我網ト引掛リ、之ヲ契機トシテ我軍一斉起
ケリト。

(4) 其他情況今ヲ不明ノ為、同夜、同地ノ裏山(五
百米高地ニ接スル山)ニ入り情況ヲ見テ新

2790 1820
205

指定地ニ通出ルニトセリ

(5) 當時ノ戦部隊ノ情況云々ノ如シ

(4) 司令部ノ隊(市川隊、柳原隊、大原隊、司令部

見張等)ハ直ニ當トシテ現地ヨリ敵ニ付

(3) 第一大隊ハ司令部ノ隊後方約三軒ジャンガル

由ニ在リ

(2) 第二大隊ノ大部ハ根柢ヲ佐直率一司令部ノ隊

後方約三軒ヨリ依テ固ク下依ニ第一第二大隊

轉進補給隊施設云々ノ指揮ヲ命ズ

(1) 第二大隊ノ一部ハ大隊後方口ヲ依テ之ヲ率ヒ馬蹄形

高地東側高地ニ四日待機セリ

第二復員省

(参考) (秘)

(1) 第一次自決戦態勢に對し命令と同時に第百三師團參謀長
 和田惇大佐より志村大佐宛秘的伝言あり
 即ち陸軍ハ師團司令部が自由ニ部々特ニ秘精鋭大和部隊
 ヲ直率トシ海軍ハ師團司令部ハ縁ヲ切リテ陸軍ニ支持ヲセヨ
 海軍ハ同様ニモテハ行ハスト通事セヨ
 志村大佐ハ之ニ對シ
 海軍ハ左様ノ事ハ行ハスト通事セヨ
 之ヲ陸軍司令部が陸軍ハ決戦ト決部隊ヲ海
 軍ニ押付ケタル心ヲ察シ憤懣ニ堪ヘズ又ナリ
 (2) 六月四日師團司令部が訪レタルニ師團長・旅團長・參
 謀長等謀ノ四名ハ各々約百米間隔ニ河原ニテ食
 小室ヲ造リ各々一名ト共ニ同棲シナリ
 志村大佐同ヒ
 ニ無力節約ノ極限ニ至リ使用ストノ參謀長ノ事

當番

す。

ソコト北西方第一連終りニヒテモ斯ルハ其ノ航空
隊士友ハ其見シテ憤激シテトク根柢大ニ揺ルヲトア
リ之ヨリ青木不造物販長ニ所員ニナル處ハ必要ナセ
ハ取上ゲテ不要ナキハ其物販ニ押付ケラレ且迷惑ナリ
ト断不憚ナキヲ表シセタリ

林枝園多謀大ニ部隊長ニ連終ノ際金中ニヒテ
書込ニヒテ降兵ハ師団司令部ガセリ抱ク為新軍
ハトコトコト走り廻リ戦事ニコミヨト云ヒセタリ
ト。

斯ニ事モアリ又師団多謀ノ利己的不人情ノ命令等ハ情ヲ絶然
陸軍兵數ハ金中多謀ニ反抗シテ殺サントセシコトアリト

(四) 第一期戦闘

(1) 志村大佐は司令部直屬部隊ヲ以テ敵村ニ襲撃シ、敵陣ニ入リ、
後方第一第二大隊神銃隊ヲ連發エテ隊トノ連絡ニ及ビ、
キ爲メテ張來大佐ニ指揮セシム

(2) 司令部ハ隊ハ強固ニ敵ヲ阻止シテ、敵ハ攻メアゲテ、馬
馬隊前方地西方脚ニ向ケ攻撃目標ヲ喪失、同地ニハ
大西部隊ノ一隊ハ隊アリ、甚モ我ノ機ヲナリシガ、
川隊ノ斜射側射ニテ、是ニ敵ハ二回ノ攻撃ヲ断念、
チ

(3) 相當大部隊ノ敵ハ司令部ハ隊ヲ包圍攻撃ノ意圖ナリ
ニカ、東方ジャングルニ方面ニ迫撃砲ヲ以テ攻撃シ、
同地ニ陸隊アリ、第一大隊ハ、倭兵は位置ヲ喪失、
サ群ケツアリ

(4) 斯レテハ総而兵カヲ徒ラニ消耗スル危險アル為危險ヲ切抜ケテ速ニ新駐留地ニ退出セシメテ全固ス。恰ニ浦紋隊施設工隊ハ連絶途ナリト取シテ第天隊漸進ニ退出シテ

(5) 六月七日頃、第一大隊ノ大部及司令部隊ノ一部ヲ以テ南方固ニ陣地ヲ占領シテ敵ヲ夜襲撃退シ、其ノ敗果ヲ見テ退却セシメ、命令全ヲ出セシメ、根柢大佐及第一大隊長九若ヲ依ノ位置毎、數回移動シテ、由ニテ通報セバ、九月一日、事漸々司令部ノ隊は敵隊ノ詳細偵察セシメ、ニシテ兵力不足ノ為夜襲撃行ニ至ラズ、九月(?)ニ至リ漸々連絶途ニシテ、同日夜決行セシメ、第一大隊方向ヲ誤リ、不戦功ノ旨十日報告シ来ル

(6) 此後推移セシメ、遂ニ全滅ノ危險ニ陥ル憂アリ、以テ

い第一期転進

逐次各隊毎に敵の進みを見せ進出するに定めて司令部へ
隊ハ○十日(?)前夜進出するにトナリ

十日午後根柢大穴九ヶ所偵察結果敵を不意に成功の報
告用隊ヲ逐次司令部へ隊進出に進出中ト報告トナリシ
ヲ以テ師團司令部へ区域に入らずに根柢を急襲し、
軍火庫、司令部、通信所、炊事場、衛生所、
ア司令部へ隊の進出を配属するに根柢配ケ

い言月十日(?)夜司令部へ隊ハ南々トテ敵陣下ヲ馬蹄
形高地南端に白ヶ転進ケ

(二)聖土目。三。演前衛多川中隊ノ後部ヲ切レ渠統
トシテ志剛進出ニ後方ヲ確保病人部隊中同ヲ切

211

通信隊の消息不明なり。我々手放し備じつ、アル
間、黎明時如何に敵方ナキヲ以テ取敢へば附近ノ
濃霧物ヲ私チ之ニ入リタリ。位置目的地ノ北方

(3) 田地は先づ天塚先奔隊に位置せしむる如く諸施設あり
田地は丁度総部隊収容の態勢を整へて陣地
を配備し、市川隊及第2天塚先奔隊の指揮所とす
龍溪寺あり

(4) 第三大隊先鋒隊ハ元現至地至リ、北方に隊ノ我斗激烈
ナリシ當時ハ一時馬蹄形高地南西方に撤退シ再び同高
地南端に復帰セリト

(5) 市川涿ノ南東方高地、柳沢涿ノ西方、大流涿ノ北方、
森園涿(水尾涿)ノ半ノ水涿)ヲ司人部、上ニ砂備セ

[illegible]

(6) 後方商人印法より連統印レシムル道ヲ沿リ收買或錦ニ突入
射撃ヲ受ケ撤退中印原法ニ遭遇其機率より翌日撤退一命ヲ不

根元大佐に於て大隊長より再三再四連絡せしむに至るに
 出る所手配を以て連絡せしむるに於て其内々
 敵ハドレドレ道路ヲ下り進出シ来り司令部を攻め之ヲ

文一付書一呈

(1) 松本大正、同、合部、活版所、若干、印刷、印刷、愛、

情次ヲ論キ其ノ針小橋大ノ義

先ニリ
一止
出シ
付カ
ト爲シ
足内
敵
次第ニ
圧迫
ヲ加ヘ

奉旨送上海軍部陳隆軍備部洽，其戒地已後入

262547

修之根来在位ハ叶国長ニ呼付ケル此輩ヲ受ケル是モ根

未だ終日吹、樹影懐く晴る。さき直暈トナリタ

リト。(中国の根拠を以て平素の如く承知し、食を以て導き出す。トキハ新澤ニカベト小生

(2) 其前線第一隊ハ約トミテ司令部ニ進出スルヲ要ス

歸形高地西方へ進出南下中根来大依より北方へ松
進ふ中師団司令部へ係へり北方へ松進出ス 之六月
十八日頃ナリ

(休) 第二期戦斗

(1) 根来大依ノ指揮する海軍部隊が、松進出
より吉澤中尉ヲシテ進行連絡セシム

(2) 吉澤中尉ハ目的地に達スル海軍部隊ヲ見ズニテ、師
団司令部ニ松進出の様子ヲ報告セシメ、司令部より、
松進出の師団司令部ハ松進出の高度ノ高さを直前ニナリ
師団長ハ松進出の高度ヲ根来大依ヲ要口ニシテ、特
根来大依ハ一次自決戦勢ヲ破壊セシメ、松進出
進命ハ、松進出一晝夜早ク松進出開始ナルハ命令違反
ナリ、而シテ師団司令部中より通達ハ、不慮ニ松進出

214

(四) 二十日夕、吉澤中尉ハ師団命令ヲ、海軍部海人
 第一師団ニ合同スルキヲ報告ス
 我々ハ當部ハ海軍ニ陸軍派我々自前海リ押付ケ
 るニ、海軍部海人自前海我々自前大ニシテ其意
 小ノ其能力ナキヲ知リ、之ヲ厄介拂ヒセシナリ
 (五) 各隊ハ糧食ハ蒐集中ノ為三日ノ事ナシテ行動中ノ
 ニアリ、依テ北方撤退ヲ二十三日ト豫定シ其内
 敵情ヲ綿密ニ偵察セシム
 敵情ヲ綿密ニ偵察セシム
 敵情ヲ綿密ニ偵察セシム
 其後十四日頃、北方山頂ヲ敵ノ偵察ヲ見ケリ
 十六日頃、敵ノ作候ヲ見ケリ、我々ハ第一北方大隊海
 陸地ノ間隙ニ出現シ、直ニ其退セシメ翌日敵ノ約



日本土建工業株式會社

216

百名東南方市川河ノ津地前ヲ北逃セリ。其河ハ
 隊一ノ山沿リテ走ル。之ヲ追テシテリ。其敵ハ大床
 河北方山隈ニ出現ス。大床河ハ直ニ結ル。配墨トシ
 戦技ヲウカガヒアリシ処敵ハ其前ヲ左ニ横過山頂
 ヲ降リシトアリ。此処ニ在テ大床河先ヅ砲火ヲ開キ
 其河沿ヒテ加入。市川河又側射ヲ加ヘシ。其敵ハ若
 シハ慌テリ。北方ニ遁走。死傷約三十リ。其
 敵ハ利敵約一テ大床河救援ニ来リシ。同エリ。夜陰ニ入リ
 後退。我死傷三右ノミ
 翌日三時午後敵約二千馬蹄動。其地西方高地ヲ南トシ
 弟天沼ト云我ス。我方ホカ力著シ。其敵ハ弱ナリシ。其
 我之ヲ又ハ「カピン」銃自御小銃小銃等約十挺
 シ上ニ射殺セリ

○大日本海軍少佐長ト別テアリ。其後分門別類ニシテ
 ミテ其果大ニ考テ。大日本海軍少佐長ト別テアリ。其後分門別類ニシテ

216
246

敵ハ北方及西方ニあり。又市川沿報出ヨリ。日清東方
ヲ敵ハ隱蔽シテ連日南下ニあり

(甲) 敵ハ既ニ我ヲ包圍ニあり。依テ北方秘進ノ有ハ
レノ道ヲ選バベシ。隊長ヲ集メテ協議ノ結果市

川大尉先導ノ下ニテ市川北方ニ脱出ニ決ス。(市川大尉ノ下ニテ市川北方ニ脱出ニ決ス)
(乙) 敵ハ同日市川ニ入リ北方ニ脱出ヲ決ム。敵降兵
ニシテ脱出強ハレハ可ナリ。依テ翌ニ市川日徒

南方ニ脱出ノトシ。之ニ通シ秘配備ヲ一部表
更シテニ市川日ヲ待ツ

其際左ヲ注意ス

市川日ハ敵ノ糧攻ムベシ。若シ之ニ入リノ備ヘテナレバ
若シ糧攻ム所ナレバ。先テ南方ニ脱出。約五
料ノ地ニ入リ山ニ集結。此ヲ翌日西海山行所



日本土建工業株式會社

217

エ出ノ北進スベシ

(2) 二十四日黎明ト共ニ各隊配備位置着 司令部並ニ我

隊ハ道ニ迷ヒ消息不絶ナリ

百〇〇歩ニ至リ四圍ノ敵ハ猛攻開始 西方ノ敵ハ先ヅ
力ニ大隊陣地ニ突進シ之ニ応射ス我銃火小銃ニ
概銃一

我ニ南方ノ敵ハ我方ノ極メテ近キヲ見テ其ノ向陣ヲ
求メテ大隊中部ノ上リ直ニ司令部ノ頭上ニ出デ
加ニ西方ノ敵ト交戦中ノ大隊ヲ攻撃ス我概銃兩
挺ヲ入レテ後方ヲ猛射ス退再ビ西方ヲ猛射シ
テ退去ス敵退去ニ危殆ヲ脱シタルニ 我方濃霧
状態トナレリ

南端部ハ野砲連隊ヲ以テ我ヲ猛射我ニ十數名



日本土建工業株式會社

ノ我死若ク出スニ至ル

向モテノ関張河シテ幸ニ危松ノ脱中ニ付タルニ我
南方津地ハ能ハレ北方ニテリシ柳原派大森派等ノミ
引ノ部ト共ニ南ニ脱出約五科ノ山ニ達シ
タルニ同夜幸ニシテ引ノ部ノ部隊全ノ部集結
翌日更ニ食糧蒐集法ヲ収容ニテ北西方ニ向テ
転進ヲ開始ス

(八) 第三次転進

(1) 第三次転進開始ニ日馬蹄形高地西方ニ在リ
畫同露臺中ノ第一大隊ヨリ羽島中尉司令
官ノ連絡ノ為南ト中ニ遭遇ス

(2) 司令官ハ南方又隊長方一方ナラズト聞キテ小傭
部隊ヲ隊後受取ノ為南ト中ニ敵國大隊ニ同行



日本土建工業株式會社

219

中第一大河ニ合流セリ同大河ト共ニ五百米高地
西方ノ尖ニ在リ

根来谷低ノ裾裾ニ第一大河ハ合流スル所同河
ハ第一河國ニ合流シテ下リタルニ使河ハ全部一五
百米高地以北同高地ヲ通ズル南北線以西ニアリ
即一五百米高地北西地ニ補給河施没外流
其北方ニ佐野河(區ニ合流ナリシモノ)アリ
第一河國ノ地区ハ秋田ニシテ之以上収束ハ國
陸食糧ニ支拂ナラズ貯蔵ニ付南方又河
ハ概テ現在地階進ニテ東海島自派自派
幾ク動カズベシ 先任多ク深ハ通地ヲ定メ
報光ルベシ

(3) 依テ志持大徳ハゴテオハアストラス線中却



日本土建工業株式會社

220

附近ヲ豫定シ司令官迄リ其連絡法ヲ伝ヘテ
 同使ヲ面トナシテ南極ヲ

(4) 本月三十日目的地有地域ヲ定テ海軍印海
 令印ヲ収容シテ人出更ニ粗簡性次ニ伝ヘテ

(1) 第三次自決自裁

(1) 第三次自決自裁開始ト告シ司令官迄ノ為青森
 課ヲ派遣シ其事情況報告ノ為師團司令
 部ニ連絡將校ヲ派ス

(2) 七月十日師團司令官ニヨリ海軍南方支隊ハ五百
 米富地北方地区ニ定メラル

(3) 之ト告シ司令官ヨリ左ノ連絡アリ

(A) 司令官ハ第六大隊警戒セシメテ小隊ト告シ馬蹄形高



日本土建工業株式會社

221

地南方ヨリ

田舎者ヲ招キト令リ奉ル行軍ノ不敵ニ付司令官ハ

現至地ニ自留ル 悔軍部隊ハ當地ニ合圍セヨ

(3) 田舎者大隊ヲ能ハ施シテ外海ニ奔ル患著クナリ

初國駐ニ付現至地ニ留ル機弁令シテナリ

(4) 右命令ヨリ服志村大佐ハ原口大佐ノ率ニテ大隊ノ一

ヲシテ熱帯瀟瘍ノ為歩行至難ノ者下痢患者多ク

ノ重傷患者多ク難ニ或輕傷セシメ他ヨリテ七月十日

發聖上ヨリ司令官ニ合圍ナリ

(4) 第四次松進

(1) 司令官ヨリ野戰ニシテ大隊ノ難ニ我共ハマナリ

護送 鐵衛司令官ヨリ後ノ合圍セシ志村大佐ノ部

隊ハ次中ニ之ニ感染ス 此時既ニ果然ハ諸名

ナリ 司人及ニ授業セシノミエテ 他ハ自然ノ推移ニ要
ス外ナレ

(2) 十五日 師團司令部より 原口少佐ノ下ニ 連絡
授業ヲ直ニ主ニ退フニ要求シ 事情ヲ落メ 師
團司令官よりトテ 承認セラル 止メナリ 司令官ニ直
ニ 居ル事トシテモ 聖傷患者ハ 歩行出来ズ 病
達ニ自決セシ者ニ 名ヲソ生ジ 一同其無情ニ 悲憤セリ

(3) 司令官及ニ 談話ニミシバ

A. 北方ニ 前進ノ 軍司令官及ニ 命令ニ 對シテハ 第一 師
團ニ 疑義アリ 即チ セジ 部隊ト 令同セバ 第一 師
ニ 師團長ハ 最先鋒ナリ 第二 師團長ハ 第二 師
ニ 前進ニ 進ハ 如何ニ スベキヤニ 問シ 第一 師團
長ハ 師團長ニ 軍司令官及ニ 及同セシ 処 第一 師

④ (参考)

師團長ハ考ヘテ第一師團長指揮ハレト
 今西師團長ハシラニ際第一師團長ヲ課長ハ此係
 マ明言セシメ第一師團ハ承服スル。為ニ部隊
 マ西師團ニ割ラントナリナリト
 B. 今迄ノ情況ヲ見ニ第一師團ハ利己ニ考ヘテ
 マ師團長司令官ハ及多課長先任ヲ課長
 旧来ノ個人的交誼ヲ為表面上ハ好意ナリ
 海軍部ニ對シ懇意顯面ナリ。此從推得
 セル。海軍部ニ食物ニサシム
 依テ今後ハ海軍部ニ自衛的態ヲナリ
 師團司令官部ノ命令ニ對シテハ好イ加減ノ態度
 ナトナリナリト (志村大佐國名見)



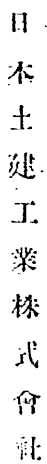
244

師団司令部に次期作戦ノ為題討議主入ル可ナルノ
 地域必ダ指示シテリ該地域ハ又司令部地域ニ接
 シテリ。第ニ次海軍駐留地域ハ以前主入業上
 区域ナリシ処。調査スルニ師団司令部直屬部隊
 食糧蒐集地域ヨリシト云々悉知スルノアリシ
 ノトナク。陸軍モ海軍莫ク係ル所ニ事ナク
 アリ。
 冰戦斗アリ海軍ノ押付タル件モ含ミ概
 ソナリ目的ナルコトハ事毎ニ悉知スルノミナリ。軍
 司令部ニ於テ「ネガロ」艦進ノ如キハ進ニ伴
 ザル見ルヲ得ザリ。
 (4) 司令部ノ隊ハ重症患者ニ若干ノ醫兵兵ヲ
 シ且北方転進ノ為七月二十日行軍開始



日本土建工業株式會社

(6) 司令部へ來た情況好方ニシテ駐留地ノ内



8990

2080

226

係モアリシテモ成々患者ヲ隔離スル
ニ因レバシ



日本土建工業株式会社

十統我

(1) 八月十日新聞電報より、ソ聯対日宣戦布告ヲ知ル
 (2) 八月十日頃新聞を報より、東久通玄殿下ニ組閣
 大命降下セルヲ知ル、意味不明ノ如ク、只日
 本ノ情況ニ甚ダシク疑点アリ

(3) 同十八日頃、半軍校撤布ノ先、師團多ク謀反ノ信
 事ニヨリ、傳我ト告ニ同、仰園が傳我師團ヲ歸
 統セルヲ知ル

如左、係ヲ拂行中、川大尉ヲ弟、右ニ仰園長ノ弟
 激進連隊セルヲ知ル、此処、我師團ニ傳我師團
 ヲ行フストニ快シ、八月二十日、司令官、白身傳
 我師團ニ有、ワグ、ラニニ白ケ出、承、ニ立
 日、同、地、ニ在、協、セ、ノ、師、統、セルヲ知ル



日本土建工業株式會社

0690 1080

第三十三特別根據地隊編成表				
隊名	隊長	補	要	配備地
司令官	少将 原田 惣見	司令部附	セ	フ
幕僚	幕僚	司令部附	セ	フ
本部	中尉(特) 高見 松之助	十九年九月下旬着	セ	フ
水警隊	少尉(特) 篠原 卓一	三六號より入る	セ	フ
百防空隊	中尉(特) 大床 廣一 (三三號駐紮後脱)	十九年八月以前着マラタシ 向陸軍飛行場防空	セ	フ
一二七防空隊	中尉(特) 佐野 常一 (三三號駐紮後脱)	今在 セブ	セ	フ
九八防空隊	中尉(特) 柳 原 照心 (三三號駐紮後脱)	十九年九月下旬着 金中番駐 共港ハマニラヨ セブ	セ	フ
防空隊	(三三號駐紮後脱)	セブ	セ	フ
		セブ	セ	フ



日本土木建設工業株式会社

5080

0671

照立隊	島書長 矢木 渡 春	今 太	セ 7
追砲隊	少尉(特) 高橋 彦五郎	十九年 末 有	セ 7
〃	島書長 松下 賦一郎	〃	セ 7
板鏡隊	島書長 新谷 博吉	〃 (十三 砲 隊 装)	セ 7
窪持隊	少尉(特) 高田 英藏	十九年 九月 末 有	セ 7
甲標砲隊	大尉 島 良光		セ 7
タクロン 砲連隊	大尉 竹 光 秀 治	十九年 九月 有 任	タクロン
本隊	中尉(特) 藤 城 要	敵 未 攻 三 日 前 先 本 隊 上 来 上 有	タクロン
九五防	中尉(特) 水田 幸雄		タクロン
連隊 基 地 隊	島書長 寺田 徳藏		タクロン
スルヤ島 砲連隊	不 知		スルヤ島



日本土建工業株式会社

2490 9080

レカスビー	中佐	佐藤田田郎	十九年九月有佐	レカスビー
水隊	中尉(特)大田器貞雄			
スリガオ水隊	少尉(特)井上勝行			ヒリ
スリガオ水隊	少尉(特)沼田保太			スリガオ
セブ				
ハレンシヤ				



日本建工業株式會社